

枝から枝へ愛くるしく ヤマガラ

全長14cm。背と翼の上面は灰色、腹は褐色で、頭は黒色と白っぽい淡いオレンジの模様です。体の大きさに比べ、頭でっかちで尾は短めです。ほぼ全国に生育しており、留鳥または漂鳥として平地から山地の林で観察できます。繁殖期以外は小群で生活し、シジュウカラなどの群れに混ざっていることもあります。繁殖期となる4～7月ごろにはキツキの古巣などの穴で営巣し、コケや草を組み合わせ、獣毛などを敷いた皿状の巣に卵を産みます。昆虫やその幼虫を食べますが、堅い木の実も食べます。特にエゴノキの実を好み、くちばしで穴をあけ中身を食べます。

森の中で木の枝から枝へと飛び移り、昆虫類や木の実をついばむ様子が愛くるしいと人々から好かれてきました。人になれやすく学習能力が高いので、おみくじを引かせたり、カルタをとらせたりするなどの芸をさせたという記録も残っています。※現在は野生の鳥を捕獲して飼育することは禁止されています。

陶史の森には、幾種類もの野鳥が生活しています。ヤマガラ以外にもシジュウカラやエナガなどの愛くるしい姿をお楽しみください。



マツの枝に止まるヤマガラ



森の日記

橋が新しくなりました

林泉の池から南に入った織部の道にかかる橋と桃山緑地の橋の改修が終わりました。老朽化して床底に穴が開いたり、端が崩れたりしていましたが、安心して散策していただけるようになりました。

長い間ご迷惑をおかけしました。これからも陶史の森園内の散策をお楽しみください。

教室のご案内

バードウォッチング (自由参加)

1月28日(日) 午前9時～11時  
真冬の野鳥を観察します。

2月25日(日) 午前9時～11時  
早春の野鳥を観察します。

陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。

冬季は木々の葉っぱが落ちていたので、野鳥を観察するベストシーズンです。ネイチャーセンターでは、双眼鏡を貸し出しています。お気軽にお声がけください。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。